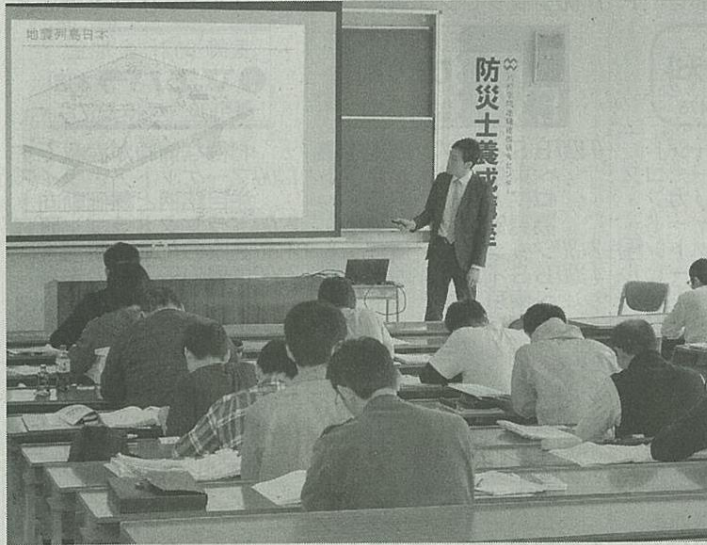




# 災害時のリーダー目指す

## 八学大で防災士養成講座



防災士の資格取得を目指した養成講座

災害発生時の仕組みや避難所運営など、さまざまな防災知識の習得を認定する民間資格「防災士」を養成する講座が12、13の両日、八戸学院大で開かれた。市民や学生らが専門家の話を聞き、非常時に率先して動けるリーダーになることを目指した。

八戸学院地域連携研究センターBOSAI推進室が主催。同推進室は、地域の安全向上へ防災知識を広めようと4月に開設。講座は初開催で、青森、岩手両県から37人が参加した。

12日は青森県防災士会の小山内敬子さん、八戸市市民安全部防災危機管理課の望月健太郎さんらが講演。受講者は、行政も災害に備えているものの限界があることを知り、誰かに頼らず自分が行動することの重要さを学んだ。また、災害の原因や対策について理解を深めた。全講義が終了した13日には、資格取得試験が行われた。

受講した同大健康医療学部カクの鈴木佳寿音カクさん(19)は「防災士は救助が主な活動だと思っていたが、いろいろな役割があり、自分にもできることがあると思うと感じた。いざというときは自分が率先して動き、地域の人を助きたい」と意欲を見せた。

同推進室の井上丹室カク長は防災士について、「自分自身や周りの人を守れるようになる。また、防災に興味を持つことで町内の避難訓練に目を向けるなど、地域と関わるきっかけにもなる」と説明し、取得を呼び掛けた。

同推進室では今後も継続的に講座を開催する予定。  
(田名部綾乃)